

北信濃里山通信 vol.14

2013年10月20日発行

巻頭言 「蝶の顔・地域の顔」

事務局長 福本匡志

本年、オオルリシジミの放蝶が飯山市内の生息地外（近辺の類似環境）で試行的に行われ、今後定着するかなど、その動向が注目される。ただし今回の放蝶は、あくまで飯山産のオオルリシジミの絶滅回避を目的とした特別なものである。貴重な蝶と言えど、もともと、そこにいなかったものが存在するようになるのは、地域の自然としては似つかわしくない（特に外来種！）。地域の自然は元からいた相応の種で構成されるべきである。

放蝶は、これまでも研究者の間で議論されてきたが、原則的には行うべきではないとの考え方が根強い。放蝶により地元にいる生態が似かよった蝶との競合が懸念されたり、地域変異（形態や性状のちがい）が見られる蝶では、地元の蝶と放蝶による遠隔地のものが交配すると、地元種の形質に影響を及ぼしかねない。

例えば、飯山にも生息しているギフチョウは地域により翅（はね）の模様に変異があることが知られている。翅の形や模様は、研究者の間では「顔（かお）」と呼ばれ、地域変異を表す指標となっている。長野県内でのギフチョウの分布は、県北部の白馬や飯山地方と県南部の南木曾や飯田地方で、両者間は地理的に隔てられており、自然では互いに交流することはなく、その「顔」も異なっている。



飯山市産ギフチョウ・♂



飯田市産ギフチョウ・♂

上の写真で示したとおり、飯田市産のギフチョウは飯山市産と比べ、翅の形は丸みを帯び、模様は黒い斑紋が幅広いなどの特徴があり、その違いがおわかりいただけるかと思う。

このような事例があるように、むやみな放蝶は交雑により地域固有の「顔」を崩してしまう恐れがある。

蝶に限らず移動性の低い昆虫、小動物・植物などは、長年にわたり雪国で育まれた「北信濃・いいやまの顔」を持っており、生きものの「顔」は地域の自然が創られた証である。

そんな生きものたちの「顔」を今後も見守っていきながら、「地域の顔」として一般の人たちにも知ってもらいたいと考える。

お知らせ



里山再生活用プロジェクト：戸狩カヤ刈りワーキング

「わたしをかや刈りに連れてって in 戸狩温泉スキー場」の開催

～かやを刈って・使って、幻のチョウ・オオルリシジミがゲレンデに舞って・・・～

「SAVE JAPANプロジェクト」の本年3回目のイベントとして企画しました。今後、オオルリシジミ生息地に自生するススキ類・カヤの本格活用をめざすため、カヤ刈り作業を行います。

当日は、茅葺き屋根を扱う「小谷屋根」の職人さんにもお越しいただき、刈り取り作業の指導やかヤの需要、かヤの品質・使われ方などについてお話しいただきます。



期日及び集合場所（作業場所）

平成25年11月16日（土）9：00～12：00（8：40～受付）

飯山市戸狩スキー場・とんだいらゲレンデ（駐車場集合、ゲレンデ脇のススキ自生地で作業）

日程

- 8：40 受付
- 9：00 開会・日程説明など
- 9：02 あいさつ
- 9：05 かヤとその利用についてのおはなし
- 9：20 作業開始
- 11：50 作業終了、収穫したかヤの講評など
- 12：00 閉会
（終了後、おにぎり・キノコ汁をふるまいます。）



- ※参加者には「戸狩温泉利用券」を進呈します。
- ※作業に適した靴・服装で参加してください。
- ※刈り取り用の鎌をお持ちの方は持参ください。
- ※参加を希望される方は、11月8日（金）までに飯山市公民館内事務局（TEL：0269-62-3342）へ申し込んでください。

※中止すべきような悪天候が予想される場合は、前日夕方までに連絡します。

・オオルリシジミ生息地の環境整備について

オオルリシジミ生息地の環境整備を、以下のとおり実施しますので、参加してください。

日時 平成25年11月4日（月・振替休日）及び11月24日（日）9:00～15:00

集合場所 9:00に飯山市公民館前とします。
途中から参加される場合は、現地へ直接お越しください。

作業内容 保護区域設営ロープ及び看板の撤去
刈り払いによる歩道の整備、灌木類の伐採作業による草原環境維持
クララの採種作業・・・など

その他 昼食は各自で用意いただき、作業に適した服装でお越しください。
雨天・積雪の場合は中止とします。

活動報告など

・観察会「信越自然郷の『夜と昼』」

「飯山の夏を彩る生きものたち・自然を夜と昼の視点から見つめよう！」と標記の観察会を8月3日と4日に開催しました。3日の夜の観察会は、戸狩スキー場「星降るレストラン」前で、講師の小野寺宏文さん（松本むしの会）からイラストを使ってクワガタムシをはじめとした虫のおはなしをしていただき、参加した子供たちは熱心に聞き入っていました。その後、ライトトラップによる夜間昆虫観察を行いました。虫の飛来量は今ひとつでしたが、北信では珍しいギンボシスズメが確認されたほか、白銀色の斑紋が目を引くギンモンズズメモドキやアカアシクワガタ、コクワガタが飛来、子供たちは興味津々でした。



翌4日は昼の観察会として、信州大学の渡辺隆一先生を講師としてお招きし、鍋倉山「巨木の谷」を周回し、ブナの巨木「森太郎」（写真）を眺めました。途中、雨が降り出しましたが、渡辺先生からは鍋倉山ブナ林の保全活動の経過やその貴重性を熱心に解説いただき、改めて北信濃の自然のすばらしさを実感できました。講師の先生方、ありがとうございました。



・「オオオカメコオロギ」を探せ！！ いいやま太田地区「秋の鳴く虫」観察会

9月15日、飯山市太田地区公民館、長野県NPOセンターと共催で「秋の鳴く虫観察会」を開催しました。講師として、伊那谷自然友の会会長の小林正明先生にお越しいただき、コオロギ類の鳴き声について解説いただきました。

今回の観察会の目的は、県版レッドリストでは絶滅危惧Ⅰ類に分類され、県内では当地区（直径300mの範囲）でしか確認されていない「オオオカメコオロギ」の実物と鳴き声を参加者に知ってもらうことです。観察会の前に行われた事前調査で本種のサンプルが捕獲できました。



オオオカメコオロギは、県版レッドデータブックによると『中型のコオロギで、体長は約18mm、エンマコオロギとオカメコオロギの中間の大きさである。体形はややずんぐりしていて、オスの顔面は平らになっているが、オカメコオロギほど鋭い顔でない。



雌の顔は丸い。全国的に生息地が限られている。8月中下旬に成虫となり、鳴き声は丸みのある音質で「リーリー」と鳴く。』とのこと。

捕獲したサンプル個体から鳴き声を録音することができました。鳴き声は他のコオロギとは明らかに異なりますが、野外では慣れないと、その聞き分けにはなかなか苦労します・・・。

観察会では参加者は捕獲したコオロギ類の実物を比較し、エンマコオロギ、ミツカドコオロギ、カンタンなどの声に聴き入っていましたが、オオオカメコオロギの鳴き声は一瞬のみ・・・。

来年、またの機会を企画しつつ、このオオオカメコオロギの産地を見守りたいと思います。

里山保全活動の紹介

当会会員の三井彰さんから「飯山市秋津地区での里山整備・子供たちの炭焼き体験」について情報提供がありましたので紹介させていただきます。以下・・・

7月29日から9月10日まで、秋津小学校児童の「サバイバルクラブ：12名」、「6年生：31名」「夏休み就労支援・こども広場の子供たち：のべ90名」が里山整備の間伐材を使い、荒船農村公園「とんぼの里」周辺で3回炭焼き体験をしました。炭焼き小屋は昨年、飯山市の支援や秋津区長会の協力で完成したものです。今年は県北信地方事務所から間伐作業でのチェーンソーの使い方について指導を受けました。

ボランティアや社協の人たち、市内大川在住の山田さんの指導で作業が行われ、各行程を炎天下、汗をかきながら頑張り、できあがった炭でバーベキューを楽しんだそうです。



編集後記

秋も深まり、オオルリシジミの生息地でもススキの穂がたなびく季節となりました。草地資源としてのススキ類・カヤの活用体系（草地管理・採取・出荷販売による収益作出）の確立は今後の会の持続的な活動を行っていくうえでも重要と考えます。戸狩でのカヤ刈りイベントは、それをうかがうものとなりますので、是非とも、御協力・御参加をお願いします。

11月9日・10日に日本鱗翅学会の第60回大会が大阪府立大学（堺市）で開催され、研究集会で「絶滅回避を目的としたオオルリシジミの放蝶による生息域外保全の試み」と題して話題提供をする予定です。絶滅に瀕する蝶の保全のあり方について問題提起をし、専門家の方々と意見交換できればと思います。

発行者：北信濃の里山を保全活用する会 会長 井田秀行
事務局：〒389-2253 飯山市大字飯山1436-1
飯山市公民館内
TEL：0269-62-3342 FAX：0269-62-5940
E-mail：kouminkan@city.iiyama.nagano.jp
編集者・事務局長：福本匡志